

当院外来透析患者における QOL 調査

(医) 衆和会 桜町病院

○内山浩子 内野澄子 丸山祐子 李 嘉明 原田孝司 船越 哲

【目的】

当院透析患者の QOL の現状を把握し、DM が QOL に与える影響を検証する。【対象】
当院外来血液透析患者 96 名にアンケートを配布し、有効回答を得られた 68 名。

【方法】

腎疾患を有する患者の QOL 測定として、KDQOL-SF ver. 1.3 (編集 三浦ら) を使用した。今回、DM 群と非 DM 群に分別し、各々の群の QOL を t-検定にて比較検討した。

【結果】

腎疾患特異的尺度の「症状」の項目において 67.7 点 (DM 群) : 78.3 点 (非 DM 群) ($P=0.019$) と有意差がみられた。その他の下位尺度においても「睡眠」以外のすべての項目において非 DM 群が、DM 群より高得点を示し、特に全体的健康感、日常役割機能 (精神) の項目で平均点に差があった。

【考察】

今回の調査では、DM 群と非 DM 群でほとんど有意差はみられなかったが、平均点で見ると非 DM 群の方が高い得点傾向にあることから DM が QOL に影響を及ぼしているということが考えられた。また、仕事や活動に対して、心理的因子が影響していると推測され、DM の患者に対しては精神的サポートを軸とした看護介入を行っていくことが QOL の維持、向上につながるのではないかと思われた。